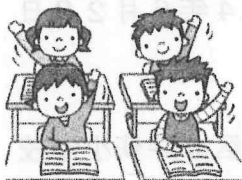


# ほっとほっとタイムズ—第4号—



2022.7.9

井萩小学校 校内委員会

例年になく早い時期の梅雨明け、それに続く猛暑、ひと段落したかと思えば蒸し暑い日々。そして、やっと減ったと喜んでたコロナ患者の激増。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

先日は、学校公開にたくさんご参加いただき、ありがとうございました。また、提出していただいた感想からは、ほとんどの保護者の方から公開をしたことについて喜んでいただけたことがわかり、ほっとしました。「入学してからどのように過ごしているか、きちんと授業に参加しているか心配でしたが・・・とても安心しました。」「学校での生活の様子がわかり、大変楽しい時間でした。」「入学して2か月、みんなしっかりと授業を受けていて驚きました。」などという、1年生の保護者の声。「一クラスの人数が多く、教室が狭く感じましたが子どもたちはとても落ち着いて授業を受けていたと思います。すごいことですね。」「人数が増えた分、いろいろな考え方をしたお友達との関わりが増えるので、良い刺激となるのかなあと感じました。」「普段の授業の様子を身近に見ることができました。自分の子どもころとは違う進化も見れたりして楽しむことができました。コロナもある中での参観実施、ありがとうございました。」などの声は、中学年の保護者の方からいただきました。(もちろん、高学年からもたくさんいただきました。)

子どもたちは、起きている時間の約半分を学校で、残り半分を保護者の下で過ごしていることになります。学校と保護者がともに理解しあい、協力し合わない子どもたちを安心して育てることはできません。今回、感想を読ませていただき、学校での子どもたちのがんばり(先生方のがんばりも)を温かい目で見ていることが伝わり、元気をいただきました。「頑張ってるね。」と声をかけられた子どもたちのうれしそうな誇らしそうな顔が目に見えそうです。

さて、ここで、親の子どもへの声のかけ方について、ひとつ、事例を紹介したいと思います。

子どもがうちに帰って「学校がつまらない、学校に行きたくない」と話したのだそうです。親としては心配で仕方がないですね。先生は何もしてくれないのだろうか、学校のことは家では何もできないのにと悩むのではないのでしょうか。では、この保護者の方はどうしたかというところ・・・。

毎日、お子さんにお友達の良いところをお母さんに報告してもらったのだそうです。どうしても思い浮かばないときは、子どもの話したことから、お母さんが素敵だなと思ったことを伝えていったのだそうです。この取り組みを何日か続けたところ、このお子さんはいつの間にか楽しんで学校に行けるようになったということです。何がよかったか、わかりますよね。子どもは学校での生活が不安だったわけです。その不安を解消するのに、周りを変えるのではなく、子ども本人の内面を変えていったのです。お母さんと話をすることによって、今まで気が付かないでいた友達の良いところに気付き、安心して学校に通うことができるようになったというわけです。

我々は、うまくいかない場面に遭遇すると、ややもするとその原因を外に求めます。他人を変えることは大変です。しかも、子どもの前で子どもの周りの人(友達や先生)の悪口を言うと、子どもはますます不安になります。これは解決方法としては失敗です。このお母さんのすごいところは、問題を解決しただけではなく、子どもの中に、人を見る目の多様性を育てたことでしょう。

ここまでのことはなかなかできませんが、私たちが子どもを育てるとき大切にしたいことは、問題を解決することも大事なのですが、「そのことを通して何を学ばせるのか」ということだと思えます。そのためにも、これからも、学校と家庭がお互いに理解しあいながら、情報を出し合い、協力してかかわっていきましょう。

